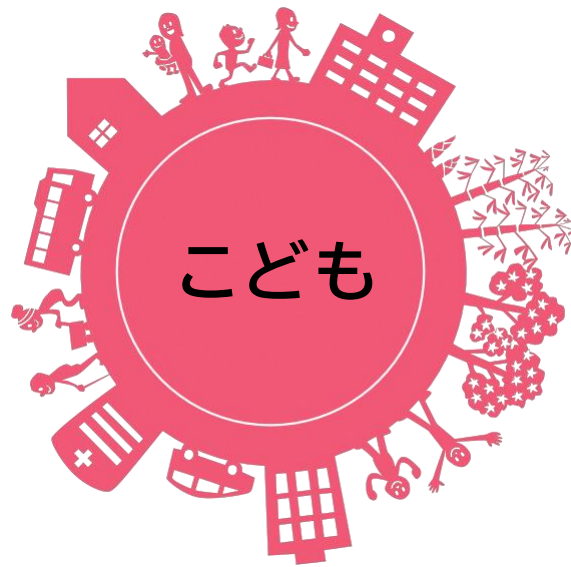




いっども

産み育てる環境

子育て環境の充実

子育てにおける安心の確保

子育てに係る経済的支援の軽減

就学前教育·保育

こどもの育ちと

多様なニーズへの支援

施設・環境の充実

学校教育

学びの充実

一人ひとりの学びへの支援

学校施設の整備

地域子育て支援

こどもの居場所づくり

こどもを見守る社会づくり



こども

5年後の目標

産み育てる環境

安心してこどもを産み、育てられる環境が整い、
全てのこどもがその子らしく健やかに育っている。

●概況●

国は令和5年に「こども家庭庁」設置、「こども基本法」施行など、「こどもまんなか社会」の実現に向けて取り組んでいます。本市の出生数は微減傾向にあるものの、子育て世帯の転入などにより、年少人口が一定維持されています。

妊娠期から子育て期まで切れ目のない支援、子育て支援医療費の助成拡充、児童福祉と母子保健を一体的に対応する「こども家庭センター」の設置などに取り組むと共に、療育を必要とする児童に対応する児童発達支援センターの開設を進めるなど、「産み育てる環境」の充実を図っています。

【プレコンセプションケア】

男女ともに、性や妊娠に関する正しい知識を身に付け、健康管理を行うよう促す取組

施策

子育て環境の充実

5年後
の
姿

こどもを望む人が安心して妊娠・出産・子育てができる環境の中で、全てのこどもが健やかに育っている。

子育てにおける安心の確保

5年後
の
姿

家庭環境や障がいの有無にかかわらず、支援が必要なこどもと家庭がしっかりと支えられ、安心して暮らしている。

子育てにかかる 経済的負担の軽減

5年後
の
姿

妊娠・出産・子育て・教育に関する家庭の経済的負担が軽減して、子育てしやすい環境となっている。

主な取組

- ◇ 全てのこどもの健やかな成長を支える「こどもまんなか社会」の実現に向けて、こどもまんなかプロジェクトチームを設置します。
- ◆ 公共施設の再編等を進める中で、地域子育て支援センターなど、子育ての相談や親子が遊び、交流できる場へのニーズに応えます。
- ◇ プレコンセプションケアを推進し、若者が将来のライフプランを考えて、日々の生活や健康に向き合う機会をつくります。
- ◇ 男性の育児参加を進めるため、こどもの出生前から育児の具体的な手技を習得できるよう工夫を凝らした教室等を開催します。

- ◇ こども家庭センターと医療・教育との連携を強化し、一体的な支援体制を構築し、ヤングケアラーの支援にも取組みます。
- ◇ 保育所・幼稚園・学校等における医療的ケア児の受入について、必要な人員体制を整えると共に、児童発達支援センターとも連携します。
- ◇ 共生型交流エリアを核として、児童発達支援センターと福祉・医療・教育機関との連携による発達障がい児に対する支援モデルの構築に向け、京都府と共に取組みます。
- ◇ 妊婦のための支援給付金による経済的支援と共に、アウトリーチ型の支援など、こどもの成長に合わせた切れ目ない支援を充実します。

- ◇ 子育て支援医療費の助成制度について、京都府と連携して充実を図ります。
- ◇ 様々な年代の子育てにかかる経済的負担について、国の動向をふまえた軽減策を講じます。



就学前教育・保育

就学前のこどもが、家庭や地域に守られ、
良好な育ちと学びの環境で伸びやかに生活している。

●概況●

民間保育施設の誘致や定員拡充などにより、待機児童ゼロを維持しています。保育ニーズが高まる中で、施設などのハード整備と合わせて、保育士をはじめとする人的資源の確保による受入人数の拡充など、ソフト面での対策が求められています。

併せて多様なニーズに対応した保育サービスや施設環境の充実も重要です。義務教育への円滑な移行のためにも、就学前のこどもの成長を支える良好な環境の確保が求められます。

施策

こどもの育ちと 多様なニーズへの支援

5年後
の
姿

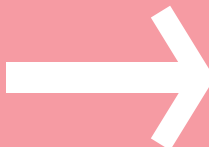
こどもの成長と家庭を支えるサービスが充実し、保護者は子育てと仕事などを両立できる環境になっている。

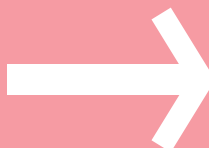
施設・環境の充実

5年後
の
姿

施設の安全・快適性が保たれ、こどもが安心して過ごしている。

主な取組

- 
- ◇ 公立保育所において、民間サービスの導入など、快適な保育所づくりを進めます。
 - ◇ 国が進める DX を活用し、保育所入所申請に係る保護者負担の軽減と入所希望とのアンマッチの解消を図ります。
 - ◇ 保育所や幼稚園等の受入状況を踏まえ、乳児等通園支援事業(こども誰でも通園制度)の導入など 0 歳～2 歳児への支援を充実します。

- 
- ◇ 深田保育所の建替整備を進めます。
 - ◇ 民間の就学前教育・保育施設の整備や改修を支援します。
 - ◇ 公立民間を問わず、保育士確保の取組を強化します。



こども

5年後の目標

学校教育

こどもが学校・家庭・地域に学びながら
「生きる力」を培って、未来に夢を描いている。

●概況●

義務教育では、体験を重視した学びの中で、児童生徒の生涯にわたる学習の基礎となる「生きる力」を育むことを重視しています。

児童生徒一人1台タブレット端末を配布し、授業や家庭学習で活用しています。学びを深められる機会の提供や、生活や学びにわたる課題の早期発見など児童生徒の能力や可能性を最大限に伸ばし、個々の特徴に応じた、切れ目ない指導・支援を行い、一人ひとりを大切にする教育が求められます。

長岡第四小学校の新校舎の整備、全特別教室への空調設置など学習環境が充実しました。

学校は児童生徒が長い時間を過ごす生活の場であり、地域のコミュニティの拠点としても機能しているため、快適に過ごせる環境整備も重要です。

施策

学びの充実

5年後の姿

児童生徒が「確かな学力」「豊かな心」「健やかな体」を基に「しなやか」に生きていくため、自ら学び、自ら考え、主体的に判断、行動し、問題を解決する能力を育んでいる。

一人ひとりの学びへの支援

5年後の姿

児童生徒の特徴に応じた切れ目ない学びの提供と支援により、一人ひとりの能力や可能性を最大限に伸ばしている。

学校施設の整備

5年後の姿

学校の良い学習環境と安全・快適性が保たれ、地域住民の集いの場や災害時の避難所としても機能している。

主な取組

- ◇ DX を効果的に活用し、「個別最適な学び」「協働的な学び」を深めます。
- ◇ 専門的な知見やデータを活用し、市全体の学力・体力を底上げする取組を充実します。
- ◇ 外国との交流や外国語活動、アーリントン短期留学など国際理解教育を充実します。
- ◇ 学校生活の中で豊かな読書経験ができるよう学校図書室の充実を図ります。
- ◇ 主権者教育と併せて「こども基本法」について学ぶ機会を確保します。

- ◇ 人権教育をあらゆる教育活動の基盤に位置付け、誰一人取り残さない学校を目指し、不登校・いじめ対策を進めます。
- ◆ 学術研究機関と連携し、脳科学など最新の知見を活用しながら、科学的根拠に基づく学習・生活支援を進めます。
- ◇ 校内教育支援センター(別室)やフリースクールとの連携など、こどもが居場所を選べる環境をつくり、切れ目のない支援体制を構築します。
- ◇ 生徒の部活動の選択肢を増やすため、複数校合同部活動の環境整備や市民指導者の派遣など、中学校部活動の地域展開を進めます。

- ◇ 小中学校の体育館・武道場の空調整備に続き、普通教室の空調設備を更新します。
- ◇ 長岡第三小学校の建替整備を進め、老朽化が進む学校を対象に整備や長寿命化の方針を具体的に定めます。
- ◇ 快適な学校生活を送れるよう、校内の施設・設備をきめ細かく整備します。
- ◇ 学校施設における環境への取組の一環として、緑化や LED 化を進めます。



こども

5年後の目標

地域子育て支援

こどもが地域社会の一員として尊重され、多様な体験機会に恵まれて、まちの将来を担う心と力を培っている。

●概況●

放課後児童クラブは小学校1年生～4年生を対象に市内全小学校に設置しています。入所希望児童が増えつつある中で、老朽化や狭隘化の対応が必要となっています。また、多様化するニーズにも柔軟にえられるよう、効率的で質の高いサービス提供体制についての検討が求められます。

地域学校協働推進事業を市内全小中学校で実施し、自然や地域の人との関わりの中で、様々な体験を通じて学ぶ機会を提供しています。

今後も、地域ぐるみでこどもを育てる気運を高め、住民の参画と協働によってこどもの居場所をつくっていくことが重要です。

施策

こどもの居場所づくり

5年後の姿

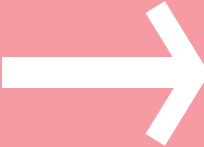
地域の様々な場所にこどもの居場所をつくり、全てのこどもが健やかに、自分らしく成長している。

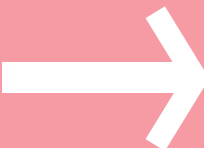
こどもを見守る社会づくり

5年後の姿

こどもが意見を表明する機会を確保しながら「こどもの目線」のまちづくりに取り組み、こども・若者の育成を社会全体で支えている。

主な取組

- 
- ◇ 放課後児童クラブの整備と民間との連携を進め、学校敷地内に立地する本市の特長を活かして、しっかりとサービスを提供します。
 - ◇ 地域学校協働活動を通して、こどもに様々な体験や活動の機会を提供します。
 - ◆ 公共施設の再編等を進める中で、地域子育て支援センターなど、子育ての相談や親子が遊び、交流できる場へのニーズに応えます。

- 
- ◇ こどもの意見表明の機会を設け、ハード・ソフトの両面でこども目線のまちづくりを進めます。
 - ◇ 生きづらさを抱えたこども・若者に対する相談支援等を総合的に行う体制を整備します。
 - ◆ こどもの居場所をつくる取組等を通して多世代が交流する場をつくり、地域における互助・共助の力を育んでいきます。





保健・医療

健康づくりの促進

医療体制の確保及び福祉との連携

高齢福祉・障がい福祉

健康長寿を支える環境づくり

高齢者への介護等支援の充実

障がいのある人等への支援の充実

地域福祉

とりこぼさない支援体制の実践

地域共生社会の基礎づくり

セーフティネット

公的な生活支援の充実

社会保障制度の適正運用



くらし

5年後の目標

保健・医療

健康づくりの意識と行動が浸透し、市内で安心して医療を受けることができ、市民の健康寿命が延伸している。

●概況●

健康診断・検診の受診率の向上に向け、デジタル技術を用いた多方面からの情報発信を行っています。市民が生活の中で健康に関する知識を身につけ、健康に過ごすための生活を実践できる環境づくりが重要です。

令和4年6月に公的病院である京都済生会病院が新築移転し、救急医療をはじめ、小児・周産期医療等いわゆる不採算医療を担っています。高齢者の救急搬送が増加しており、今後も確実に高齢化が進むことを見通して、地域医療との更なる連携が求められます。

一方で、人生の終わりをどこで過ごし、どのように迎えるか、一人ひとりの思いに沿った選択肢があり、看取る家族の思いを支えられる環境は社会の豊かさの1つの指標です。個々人の選択の幅を広げていくために、医療と福祉が連携し、在宅医療・介護の環境を考える必要があります。

施策

健康づくりの促進

5年後の姿

「自分の健康は自分で守る」という意識のもと、青壮年期から疾病の予防と早期発見に向けて行動を変えることで、市民の健康寿命が延伸している。

医療体制の確保及び福祉との連携

5年後の姿

かかりつけ医と総合病院等との連携に加え、医療と福祉の連携により、市民が疾病・介護時の不安がない生活を送っている。

主な取組

- 
- ◇ 健康づくりの3要素「栄養・運動・休養」に関する知識と関心を広め、青壮年期を中心に、自然に行動へと繋がる保健活動を目指します。
 - ◇ 健康診断や各種検診、予防接種など、健康な生活を送るための基礎的な保健活動を展開します。
 - ◇ 食育のポピュレーションアプローチにおいて、健康づくりに加え、フードロスなど食に関する多角的な視点を提供できるよう工夫します。
 - ◇ 感染症発生時には、対策本部を中心に正確な情報提供や関係機関と連携した迅速な対応に努めます。

- 
- ◇ 京都済生会病院に対する不採算医療部門への支援やかかりつけ医との連携、休日の診療体制の確保など、市内の医療提供体制を支えます。
 - ◇ 医療・介護関係者のプラットフォームを形成し、資源の把握や課題の抽出、関係者への相談支援など、切れ目のない在宅医療・在宅介護の提供体制を構築します。
 - ◇ がん患者のアピアランスケア支援事業や若年がん患者の在宅療養支援事業を通して、患者本人が望む生活を送れるよう支援します。



くらし

5年後の目標

高齢福祉・障がい福祉

介護が必要になっても、障がいがあっても、
誰もが住み慣れた地域で、その人らしく暮らしている。

●概況●

本市では、地域包括ケアシステムの構築に向けた様々な取組を進めています。令和6年には介護予防と世代間交流等を目的とした「健幸すぽっと のびのび苑」を整備しました。元気な高齢者の社会参加の促進、認知症対策や介護予防に取り組める環境づくり、互助・共助を基本とした見守り・支えあう地域づくりなども必要です。

向日が丘支援学校の整備を契機とした共生型交流エリアの整備が進み、乙訓圏域初の児童発達支援センターの開設も控え、障がい福祉サービスの充実や市民の交流が期待されます。障がいのある人等への理解と支援が進み、地域社会の中で支え合いながら、障がい等の状態にかかわらず、生涯を通じて自分らしく生活できる社会の実現が求められます。

今後、急速な高齢化によって、介護、医療、生活支援等のニーズの増大が見込まれる一方で、支援従事者などのマンパワーが不足する中、誰もが必要なサービスを選択・利用できる体制の確保が求められます。

施策

健幸長寿を支える環境づくり

5年後の姿

経験や能力を活かし、生きがいや喜びを感じる自分らしい社会参画を通して、高齢者がいきいきと暮らしている。

高齢者への介護等支援の充実

5年後の姿

地域包括ケアシステムのもとで、市民の認知症や介護等への理解が進み、介護が必要な人やその家族が住み慣れた地域で安心して生活している。

障がいのある人等への支援の充実

5年後の姿

障がいの有無にかかわらず、全ての人が自分らしく暮らしている。

主な取組

- ◇ 仲間づくりの支援、多様な体験型のプログラムやトレーニングメニューの提供、高齢者 e スポーツの導入等“楽しい”介護予防と健康づくりを展開します。
- ◇ シルバー人材センター、やすらぎクラブ長岡京、関係団体が連携し、高齢者の活動発表の場、スキルを仕事や地域活動で活かすマッチングの場を創出します。
- ◇ 各種の地域活動やコミュニティの活性化を支援することで、生涯活躍や介護予防の実践となる場づくりを進めます。

- ◇ 認知症の早期発見から自分らしく過ごせる支援、家族介護者へのエンパワメントまで、医療・福祉・商業等の多業種連携による地域包括ケアシステムを構築します。
- ◇ 認知症サポーターの養成など認知症や介護に対する社会全体の理解が深まる取組を進めます。
- ◇ 介護者の社会活動と介護の両立を支援するため、相談機能やサービスを充実させます。
- ◇ DX を活用した介護事業所と行政機関とのネットワークの構築により情報共有の円滑化、業務効率化を図るなど、働きやすい環境をつくり、人材確保に繋がります。

- ◇ 共生型交流エリアに立地する各施設と市民、市内福祉施設等との“垣根のない交流”を通し、「誰もが共に自分らしく暮らす長岡京市」を実践します。
- ◇ 福祉と農林水産業との連携による事業化を支援するほか、「ほっこりんぐ」をインクルーシブ公園や市民広場等で開催し、販売機会拡大に繋がります。
- ◇ 障がい者の雇用促進のため、雇用側が相談できる公的サービスを案内します。
- ◇ アール・ブリュットやボッチャなど文化スポーツの場を通して、障がいのある人もない人も共に楽しみ、共に活躍できる場づくりに取組みます。
- ◆ 障がいや障がい者を取り巻く環境への理解を深めると共に、社会的バリアの解消に努め、「合理的配慮」が自然に行われる社会を目指します。



くらし

5年後の目標

地域福祉

地域での支え合い・助け合いと公助が連携し、誰もが
住み慣れた地域で安心して暮らすことができる。

●概況●

令和5年度に複合的な生活などの課題を抱える世帯に対する包括的な支援と地域住民等による地域福祉の推進を一体的かつ重層的に実施する「とりこぼさない支援体制(重層的支援体制)」と「とりこぼさない支援を考えるプラットフォーム」を構築しました。

こうした仕組みを活かし、地域共生社会づくりを進めていくことが求められます。

施策

とりこぼさない支援体制の 実践

5年後
の
姿

福祉的な支援を必要とする全ての人に支援が届き、誰もが安心して暮らしている。

地域共生社会の基礎づくり

5年後
の
姿

福祉関係者のネットワークや地域の人々のつながりの中で、誰もが安心して暮らせる地域共生社会となっている。

主な取組

- ◇ 重層的な課題を抱える世帯に対し、行政や関係機関が協働し多様なアプローチと多角的な支援に努めます。
- ◆ 学術研究機関と連携し、脳科学など最新の知見を活用しながら、科学的根拠に基づく学習・生活支援を進めます。
- ◇ ひきこもり状態にある人や家族に対し、相談等を行う支援体制を構築します。
- ◇ 民間事業者と連携し、多様な就業先や新しい活動と居場所の開拓を通して、発達障がい疑いの疑いやひきこもり状態にある人を支援します。

- ◇ 社会福祉協議会と共に社会福祉法人や福祉活動を展開する NPO・市民活動団体とのネットワークを形成し、多機関協働の取組を強化します。
- ◆ こどもの居場所をつくる取組を通して多世代が交流する場をつくり、地域における互助・共助の力を育んでいきます。
- ◇ 社会環境の変化に合わせて、民生委員・児童委員の活動を支える環境を整備します。



くらし

5年後の目標

セーフティネット

年金と医療・介護保険の制度が円滑に運用され、生活困窮の状態の人に適切な保護と自立支援が行われている。

●概況●

生活に困窮する人への「福祉なんでも相談室」による個別プラン作成と伴走支援を行っています。社会経済や雇用状況などの変化に伴って、生活保護制度の適切な運用と関係機関との連携による早期の生活自立に向けた支援が重要です。

年金、医療保険、介護保険の各制度を、公平かつ適正に運用しています。今後、これらの制度を堅実に運用することが必要です。

施策

公的な生活支援の充実

5年後の姿

生活上の不安を抱える人、生活困窮にある人が早期の支援によって自立へと向かうと共に、その人の状況に応じた包括的な支援が提供されている。

社会保障制度の適正運用

5年後の姿

年金、医療保険、介護保険の各制度が安定して運用され、市民の健康と生活の安心が守られている。

主な取組

- 
- ◇ 生活保護制度を適正に運用し、生活保護受給の前後を問わず、生活の安定及び就労による自立と社会参加を支援します。
 - ◇ 健康への意識に個人差の大きい高齢や単身の生活保護受給者を中心に、健康管理を支援します。
 - ◇ 福祉なんでも相談室において住まいの確保や家計の見直しなど、幅広い生活の困りごとに、専門の相談員が寄添い、支援します。
 - ◇ 公営住宅の長寿命化に取り組めます。また、不動産業界や京都府と共に、高齢者をはじめ見守りが必要な人の居住環境整備を進めます。

- 
- ◇ 国や府、後期高齢者医療広域連合と共に、医療保険財政を支え、制度の安定的な運用における基礎自治体としての役割を果たします。
 - ◇ DX を活用し、国民健康保険に係る各種手続の簡素化と利便性の向上を図ります。
 - ◇ 介護保険サービスを安定的に利用できるよう、保険者としての役割を果たします。
 - ◇ 国民年金の身近な窓口として、相談体制を維持します。



人權

人権・平和を尊ぶまちづくり

多様性を認め合う共生と

インクルージョンの実現

協働

自治活動の充実

市民活動の活性化と連携の促進

生涯学習・文化・スポーツ

生涯学習環境の充実

文化・芸術の振興

スポーツの振興



かがやき

5年後の目標

人権

一人ひとりの人権が尊重される居心地のよいまちで、誰もがその人らしく、自らの個性と能力を発揮している。

●概況●

関係団体・機関との連携や地域の見守り機能の強化を通して、人権擁護を図っていますが、情報技術の発達に伴って、人権侵害の態様は複雑化し、深刻な事例も後を絶ちません。

「いのち輝く長岡京市平和都市宣言」に基づいて、市民に対して幅広く、たゆまず、平和の大切さを啓発することが求められます。

女性の社会進出は介護や子育てを巡る環境など社会を大きく変えました。この流れを止めることなく、行政はあらゆる分野での女性の活躍を進めるために支援していく必要があります。なお、市民意識調査の結果からは社会の変化が実感されていないことが分かるため、引続き女性にフォーカスを当てた取組が求められます。

性的指向や性自認にかかわらず、自分らしく生きられるようパートナーシップ宣誓制度の導入や都市間連携にも取り組みました。

施策

人権・平和を尊ぶまちづくり

5年後の姿

一人ひとりが確かな人権意識と平和を尊ぶ心を持ち、差別と人権侵害に対して考え行動する力を有している。

多様性を認め合う 共生とインクルージョンの実現

5年後の姿

多様性を認め合い、一人ひとりがかけがえのない社会の一員として、共に支え合いながら暮らすことのできるインクルーシブな社会を築いている。

主な取組

かがやき

人権

- ◇ 人権を尊重し、様々な人権問題の解消に取り組む市の方針を明確にし、施策を展開することで、市民の人権意識を高め、互いに尊重し合える社会を実現します。
- ◇ 増加するインターネットや SNS による人権侵害に対し、関係機関と連携し的確に対応します。
- ◇ 戦後 80 年を越え、戦争の記憶が薄らぐ中で、「平和」の大切さや命の尊さという価値観を次世代へ継承できる取組を展開します。

- ◇ 男女共同参画センターにおいて、相談スペースのリデザインや出張相談、相談カフェなど相談しやすい環境づくりを進めます。
- ◇ 「困難な問題を抱える女性」を支援するため、民間団体と協働する体制を構築します。
- ◇ 「にじいろ企業登録制度」を通して、講演会や相談会の実施など、企業や事業所と行政が一体となって普及・啓発を進め、性の多様性への理解を促進します。
- ◆ 障がいや障がい者を取り巻く環境への理解を深めると共に、社会的バリアの解消に努め、「合理的配慮」が自然に行われる社会を目指します。

SDGs
該当分野





かがやき

5年後の目標

協働

地縁型・テーマ型の多様な市民活動が展開され、ふれあいと交流、協働によって、まちが元気になっている。

●概況●

令和5年1月に「長岡京市助け合いとつながりのまちづくり条例」を施行しました。条例の理念を実現するため、多様な市民と市が共にまちづくりを自分ごととして捉え考える場「まち活 MTG」を設置しました。幅広い年齢層や様々な考え方を持つ市民が自治活動や協働について考え、実践に繋がりはじめています。

自治会加入率は年々低下していますが、持続可能な自治会活動や、自治活動の多様な考え方・あり方を取り入れる取組も動き始めています。

一方で環境や子育てなどテーマ型の市民活動に取り組む団体は、数も種類も増加し、多様な活動が活発に展開されています。

今後、こうした地域を支える団体の活動が継続的に展開されるよう個々の実情に応じた支援が求められます。

施策

自治活動の充実

5年後の姿

地域住民の間につながりが生まれ、防災・防犯や環境保全等、地域が主体となった活動が行われている。

市民活動の活性化と連携の促進

5年後の姿

経験や趣味を活かしながら市民活動に参画する人が増え、団体の活動や団体相互の協働がまちづくりの力になっている。

主な取組

かがやき

協働

- ◇ 自治会業務のデジタル化など自治会運営の負担を軽減し、各地域の実情に応じて必要な支援を行います。
- ◇ 自治会未組織地域に対しては、被災時に助け合える仕組づくりを契機に、マンション等みなし自治会や自主防災組織の立上げなど地域自治の活性化を支援します。
- ◇ 地域集会所の老朽化対応やバリアフリー化など、新陳代謝を図る取組を支えます。
- ◇ 校区コミュニティ協議会を中心に、校区単位の団体間連携を進めることで、校区内共助機能の強化を支援します。

- ◇ 市民活動サポートセンターとまち活 MTG 事業との連携のほか、市民活動のスタートアップから専門的な活動まで、各段階に応じた伴走支援体制を構築します。
- ◇ 市民活動サポートセンターの機能として、市民活動に加えて自治会など地縁型団体も含めて支援することで、団体間、市民間のネットワークを創出します。
- ◆ 市民参画の機会を増やすため、オンラインプラットフォームなど新たな手法も研究しながら、市民間コミュニケーションの活性化を図ります。



かがやき

5年後の目標

生涯学習・文化・スポーツ

誰もが学びの喜びに満ち、文化や歴史に親しみ、運動・スポーツを楽しむ機会が充実し、生活にうるおいと心身の健康を感じている。

●概況●

多くの市民が文化・芸術・スポーツ活動に積極的に参加しています。それぞれの「する」「みる」「ささえる」といった様々な活動を通して、新たな知識や仲間との出会いを生み出しています。市民生活の身近なところで、日常的に文化やスポーツに親しむ場と機会の充実を図ることにより、市民の諸活動を更に活発にし、文化・学習活動を広げ、健康、体力を保持増進するきっかけとなることが求められます。

市内各所において長年発掘・調査を進めており、令和4年度には「長岡京市文化財保存活用地域計画」が文化庁の認定を受けました。貴重な文化財を後世へ伝え、市民共有の財産とする取組が必要です。

施策

生涯学習環境の充実

5年後の姿

誰もが人生を通して学びへの意欲を向上させ、また、仲間と共に学びを楽しみ、自己実現に繋げている。

文化・芸術の振興

5年後の姿

ふるさとの文化・歴史や良質な芸術に親しむ機会が増えて、市民の多彩な活動がまちの魅力をつくっている。

スポーツの振興

5年後の姿

心身の健康を保つため、誰もが日常生活の中で運動・スポーツに親しみ、これを通じた交流を楽しんでいる。

主な取組

かがやき

生涯学習・文化・スポーツ

- ◇ 生涯学習に関する講座情報を一元化し、市民が必要な情報にアクセスしやすくします。また、各種講演の録画配信など生涯学習の機会を拡充します。
- ◇ 人材データベースを開設し、生涯学習やボランティアなど様々な場面で市民が活躍できるマッチングシステムを構築します。
- ◇ 図書館は蔵書の充実に加え、様々な世代が憩う場になるようユニバーサルデザインの視点を持ちながら、各ゾーンの配置を工夫し、リノベーションします。
- ◇ 図書館、中央公民館、京都府長岡京記念文化会館のエリアは、京都府と連携し、地域の文化ゾーンとしてリニューアル整備を進めます。

- ◇ 長岡京記念文化事業団と連携した質の高い文化芸術の提供や、文化団体への運営支援によるイベント開催などを通して、市民の文化活動の機会確保に取り組めます。
- ◇ 長岡京芸術劇場の充実や市立中学校吹奏楽部とプロやアマチュア楽団との連携など、こどもが音楽や演劇などの文化に触れる機会を創出します。
- ◇ アール・ブリュットなど文化を通して、障がいのある人もない人も共に楽しみ、共に活躍できる場づくりに取り組めます。
- ◇ 歴史資料展示室の企画展や最新のデジタル技術を使った展示により、市内周遊の拠点機能を発揮します。また、埋蔵文化財の保管体制を強化し、活用を進めます。

- ◇ ニュースポーツ(ファミリーバドミントン、ミニバレーボール等)など幅広い年代で楽しめるスポーツの普及を通して、生涯にわたるスポーツライフを提案します。
- ◇ インクルーシブな取組(ボッチャ等)を通して、障がいのある人もない人も共に楽しみ、共に活躍できるスポーツ環境を整えます。
- ◇ こどもの体力・運動能力向上を目指し、親子参加やこども向けのスポーツイベント、遊べる場所の整備に取り組めます。
- ◇ 公共施設の再編を通して、スポーツを「する」環境の充実を図ります。

SDGs
該当分野





中心市街地整備の推進

道路空間の整備

商工業・観光の振興

都市防災機能の向上

災害時に生きる

ネットワークづくり

安全・安心な地域づくり



まち

5年後の目標

市街地

自然環境、都市機能と住環境の調和が保たれたまちで、市街地の魅力向上が展望できる。

●概況●

長岡天神駅東口広場公園の開園、JR 長岡京駅東口駅前広場の整備、市役所新庁舎(1期)の完成など、中心市街地における都市基盤整備を進めています。

令和 8 年度には新庁舎の整備を終え、阪急長岡天神駅周辺が本市の市街地整備における大きな課題となります。都市活力の維持・向上のために、にぎわいのある中心市街地の整備と合わせ、高齢者等の移動負担が軽減され、誰もが暮らしやすいコンパクトなまちづくりが求められます。

本市が形成してきた西山の自然と良好な住環境、商工業が調和するまちを維持していくことも重要です。

長岡京市では、法律上の「空家」に加え、長屋建てにある住戸を含めて、「空き家」と定義しています。

行政プラットフォームとは、各種専門家と連携し、空き家に対する相談や流通、利活用をサポートするための体制を指します。

施策

中心市街地整備の推進

5年後の姿

「ひと中心のにぎわいのあるまち」をコンセプトとした阪急長岡天神駅周辺のまちづくりが進展している。

調和のとれた都市形成

5年後の姿

住・工・商・農の調和がとれたうまいのある都市空間が形成されている。

主な取組

- 
- ◇ 阪急長岡天神駅西地区は、土地の高度利用を図り、駅前広場やにぎわいのある都心拠点の整備に向けた計画を地域と連携して具体化します。
 - ◇ 阪急長岡天神駅東地区は、連続立体交差化を目指し、土地の取得や補助幹線道路の整備などを段階的に進めます。
 - ◇ JR 長岡京駅東口や市役所の市民広場など居心地の良い公共空間の整備により、にぎわいと魅力ある中心市街地をつくります。

まち

市街地

- 
- ◇ 経済振興や事業所の集積・流出防止のため、市域全体の土地利用の適正化に向けた取組を進めます。
 - ◇ 今後増加が予測される管理不全の空き家の発生を未然に防ぐため、情報発信と行政プラットフォームや空き家バンクを通じた利活用の促進に取組みます。
 - ◇ マンション管理組合に対して、管理計画の認定や専門家の派遣などを行い、マンションの適正な維持管理を支援します。



まち

5年後の目標

道路・交通

道路の整備や、交通のネットワーク化が進み、誰もが移動しやすいまちになっている。

●概況●

通学路など歩行者を優先した道路空間や自転車ネットワーク路線の整備など、歩行者・自転車共に安全・安心に移動できるまちづくりが求められます。

本市は鉄道や主要幹線道路の利便性が高く、路線バスとコミュニティバスの運行により、市街化区域のほぼ全域を鉄道駅勢圏及びバス停勢圏で網羅しています。

過度に車に依存しなくても暮らせるまちづくりを目指し、人口減少やライフスタイルの変化、環境、健康、安全面に配慮した、将来にわたって使い続けられる交通システムが必要です。

施策

道路空間の整備

5年後の姿

歩道の維持と整備、バリアフリー化が進んで、道路空間の安全性と快適性が向上している。

交通ネットワークの充実

5年後の姿

多様な移動手段による交通ネットワークが充実し、市民・来訪者が安全・円滑に移動できる環境が保たれている。

主な取組

まち

道路・交通

- ◇ 長岡京駅前線の整備を進めます。
- ◇ 京都府と連携し、御陵山崎線の整備を進めます。
- ◆ 京都府と連携し、通学路の歩道整備や交差点の改良など安全対策を進めます。
- ◇ 生活道路は計画的な舗装復旧や歩行空間の確保によるバリアフリー化を進めます。
- ◇ 橋梁の長寿命化を推進し、適切に維持管理します。

- ◇ 公共交通基金など様々な財源を確保しながら、担い手の確保を含めた交通事業者への支援のほか、幅広い世代を対象とした利用者支援、利用促進のためのモビリティ・マネジメントの活用等に取り組みます。
- ◇ 駐輪場やパークアンドライド駐車場の設置・運営を進めます。
- ◇ 自家用車に依存したライフスタイルからの転換を目指す一環として、自転車ネットワークの整備を進めます。



まち

5年後の目標

産業

地域内の経済循環が高まり、さらなるまちの魅力・活力の創出により市内外からの新たな交流が生まれている。

●概況●

本市は、製造業を中心とする企業が立地し、建設業、小売業、飲食サービス業等、バランスの取れた多様な産業構造を有しています。地域経済の持続的発展には、企業の立地促進と流出防止、市内事業所の大部分を占める中小企業の振興を継続することが重要です。

市内各所に魅力的な観光資源が点在しています。これらを活用し、地域の「稼ぐ力」、観光の目的地、定住へと繋がる観光の振興が求められています。

農地が市街地の中にもあり、まちに緑とうるおいをもたらしていることが本市の特長ですが、農業の担い手不足や、有害鳥獣による被害などの問題を抱えています。安定した農業経営と農地の保全を図ることが重要です。

施策

商工業・観光の振興

5年後
の姿

工業が都市活力の基盤となり、商業・観光がまちににぎわいと交流の好循環をもたらしている。

営農支援

5年後
の姿

安定した農業経営と農地の保全により、都市と農地との共生が図られている。

主な取組

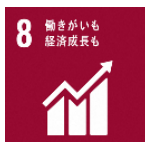
まち

産業

- ◇ 中小企業や関係団体、市民、行政等が一体で、地域内の経済循環に取り組めます。特に、事業者主体の経済循環のためのプラットフォーム構築を支援します。
- ◇ 金融機関や関係団体と連携し、創業や事業承継、中小企業の持続的な成長を支援します。
- ◇ 中心市街地における企業誘致や商業誘導とあわせて、工業系地域における既存企業の流出防止を図り、地域経済の発展に繋がります。
- ◇ 観光戦略プランを推進し、地域の魅力をつくる事業者の発掘や連携強化により魅力ある観光コンテンツの組成を進め、集客や観光消費の喚起に繋がります。
- ◇ 旅行会社やメディア等へ積極的に働きかけを行い、本市を含むツアー造成や情報発信に繋がります。更に広域的な取組により「京都西山」のブランド力を強化します。

- ◇ 高品質な農産物の生産、多様な販路の活用、担い手への農地集積など農業の経営基盤の強化や効率化に向けて支援します。
- ◇ 農業経営の改善を計画する農業者を支援し、意欲ある担い手によって担い手不在の農地が活用されるよう進めます。
- ◇ 朝市や軒先販売、イベント等の直売を通して地元農産物の魅力を発信すると共に、学校給食での利用拡大など、地産地消を促進し地域農業の活性化に繋がります。
- ◇ 獣害防護柵や有害鳥獣捕獲などの対策を強化することで、農作物の被害軽減を図ります。

SDGs
該当分野





防災・安全

防災機能が強化されたまちで市民生活の安全が守られ、地域のつながりが日常生活の安心を育んでいる。

●概況●

南海トラフ巨大地震が今後 30 年以内に発生する確率が 80%程度に引き上げられたことに伴い、地震対策への要請がより一層強まっています。また、全国各地で豪雨災害が頻発しており、浸水等の対策の重要性も高くなっています。

防災施設の機能向上と共に、市民、自主防災会等と連携した防災・防犯などの対策の強化が重要です。

防犯・交通安全などの日常の安心は、地域や市民一人ひとりの意識と行動で保たれていますが、高齢者による交通事故の対策や通学路の環境整備に対するニーズも高まっています。

施策

都市防災機能の向上

5年後の姿

地震や浸水被害などから市民の生命・財産が守られるよう、自然との調和を保った防災・減災の対策が図られている。

災害時に生きるネットワークづくり

5年後の姿

発災時に共助の体制が早期に確立されるなど、地域のネットワークが形成されている。

安全・安心な地域づくり

5年後の姿

防犯・交通安全など、毎日の暮らしの安全・安心を共につくる地域の力が保たれている。

主な取組

まち

防災・安全

- ◇ いろは呑龍トンネル整備事業に合わせた接続工事と、神足雨水ポンプ場など犬川の浸水対策を進めます。
- ◆ 下水道管路施設の老朽化対策・耐震化に向けた長寿命化を進めます。
- ◇ 避難所生活における QOL の向上に努め、学校の空調設備、災害時応急給水栓、生活用水を確保するための井戸の整備に取り組めます。
- ◇ 防災重点農業用ため池の防災・減災対策を進めます。
- ◇ 住宅や建築物の耐震診断・耐震改修を支援します。
- ◇ 東ポンプ場跡地等を活用し、小畑川以東の防災対策に取り組めます。

- ◇ 防災訓練や防災フェスタに工夫を凝らし、出前ミーティングを活用し、災害時対応や減災の取組、備蓄に関する知識など防災や共助の意識の向上を図ります。
- ◇ 防災士など地域防災を担う人材育成、校区毎の災害ボランティアセンター設置運営訓練や災害時声かけ隊など、災害発生時の共助の仕組づくりを支援します。
- ◇ 災害時要配慮者支援体制の充実のため、京都府や専門機関と連携しながら、地域と協力して個別避難計画の策定を進めます。

- ◇ 警察と連携して、交通ルールの遵守、交通安全の知識やマナーの普及を進め、特に自転車と高齢者の交通事故対策を重点的に取り組めます。
- ◆ 京都府と連携し、通学路の歩道整備や交差点の改良など安全対策を進めます。
- ◇ 防犯カメラ整備による見守り機能の充実や、警察や防犯委員会と連携した特殊詐欺対策など安全・安心なまちづくりを進めます。

SDGs
該当分野





みどり

脱炭素・環境共生

脱炭素社会への地域づくり

地域環境力の向上

西山の整備

生活環境

ごみの減量と適正処理

生活環境の保全

都市空間

魅力的な公園の整備

良好な景観の保全

水資源

水資源の保全

水の安定供給

下水の適正処理



みどり

5年後の目標

脱炭素・環境共生

持続可能な社会づくりのために行動する人の輪が広がり、
温室効果ガスの排出量が大きく削減されている。西山の
森林の美しさと生物多様性が保たれている。

●概況●

脱炭素社会への転換を目指し、省エネルギーの推進、再生可能エネルギーの普及に取組み、令和4年に「2050年ゼロカーボンシティ」を宣言しました。市域の温室効果ガス排出量の削減には、市民・団体・事業者等との連携も重要です。

最大限の気候変動の「緩和策」を講じて、気温上昇が避けられない世界に適応するための「適応策」も求められます。

「自然と共生する持続可能な社会」の実現のため、世代を超え、市民と企業などが協働することが重要です。更に、各主体が環境問題を「自分ごと化」し、率先した取組を進めていく地域環境力の向上が求められます。

西山森林整備推進協議会を立上げ、西山の整備を始めて20年以上が経過し、市域内の森林の整備が進んでいます。脱炭素社会への転換を進めるためにも、多様な主体と連携して西山の保全を図り、生物多様性に富む豊かな森を未来に継いでいく必要があります。

施策

脱炭素社会への地域づくり

5年後
の姿

省エネルギーの推進、再生可能エネルギーの普及が進み、環境への負荷がさらに低減している。

地域環境力の向上

5年後
の姿

“環境の都”長岡京の実現に向け行動する人の輪が広がっている。

西山の整備

5年後
の姿

市民・企業等の協働によって西山が整備され、生物多様性が向上している。

主な取組

- ◇ 2050 年ゼロカーボンシティの実現に向け、COOL CHOICE 事業等を推進し、より一層の省エネルギー推進と再生可能エネルギーの普及を進めます。
- ◇ 関係機関と連携し、家庭や事業者等へ再生可能エネルギーやエコ建築、省エネ行動の啓発を行うなど、庁内横断的に適応策を進めます。
- ◇ 公共施設の整備時には、環境性能に関する評価指標を踏まえ、施設特性に応じて、太陽光パネルや省エネ設備の導入、雨水や木材の利用等を行います。
- ◇ 公共施設で使う電気を CO₂ フリーにする手法を検討します。

- ◇ 市民・団体・事業者等とのパートナーシップによる取組を進めると共に、環境学習会等を開催し、自然を守ろうとする気持ちを醸成します。
- ◇ 地元団体や事業者と環境フェア・農業祭を開催するなど、市民同士の啓発・交流の機会を創出し、環境問題を身近な問題として捉える「自分ごと化」を促します。
- ◇ 気候変動による影響を大きく受ける若い世代の声を聞き、社会へと発信します。
- ◇ 市民、団体、事業者等あらゆる主体の参画・協働を促すため、身近な問題と関連づけた啓発や、取組効果の見える化など、多様な啓発を行います。

- ◇ 生物多様性を向上させるために、西山森林整備構想に基づいた産官学民連携による西山森林保全活動を推進します。
- ◇ 西山が持つ公益的機能を向上させるため、人工林の間伐や二次林の改良、拡大竹林の整備等を継続的に実施します。
- ◇ 間伐等で発生する西山産材を公共建築物等へ利用し、木材の地産地消を通して脱炭素社会の実現に貢献します。

みどり

脱炭素・環境共生

SDGs
該当分野



みどり

5年後の目標

生活環境

資源が効率よく循環する社会づくりが進んで、
市民生活による環境への負荷が小さくなっている。

●概況●

家庭系ごみ・事業系ごみ共に減少傾向にあります。

限られた資源の有効利用を進めるため、
ごみの発生抑制とリサイクルを推進します。

排出されたごみは、市と乙訓環境衛生組合で適正に処理していますが、より効率的かつ安定した処理体制となるよう、一段と取組を推進していく必要があります。また、快適で良好な都市環境の実現が求められます。

施策

ごみの減量と適正処理

5年後
の姿

市民と行政の一体となった取組により、ごみの減量・分別と適正処理・リサイクルが一層進んでいる。

生活環境の保全

5年後
の姿

大気・水質、騒音などの環境基準が守られ、自然環境と調和した、快適で健康的な生活環境が保全されている。

主な取組

- 
- ◇ ごみの減量に向けた市民の理解とマナーの向上を目的とする環境教育や、市内活動団体への支援に取り組めます。
 - ◇ 安全・安定した廃棄物処理が継続できるよう、乙訓二市一町及び乙訓環境衛生組合と協調して取り組めます。
 - ◇ ごみの出し方の分かりやすい広報や、廃棄物減量等推進員とも協力した「ごみ減量啓発キャンペーン」などを通してごみを出さないライフスタイルを推進します。
 - ◇ 給食調理くずの飼料化や「ボトル to ボトル」によるペットボトルの水平リサイクル、古紙回収活動団体への助成などにより再資源化を進めます。

みどり

生活環境

- 
- ◇ 安全・安心・快適な環境の中で暮らし、活動できるよう市独自の環境測定・監視を行います。
 - ◇ まちをきれいにする条例に基づき、空き地管理の適正化や動物の適正飼養、喫煙マナー向上などに取組み、清潔できれいなまちづくりを進めます。



みどり

5年後の目標

都市空間

近隣の人が憩い、自然とコミュニケーションが生まれる公園や西山から繋がる緑の流れなど、魅力的な都市の空間が協働のもとでつくられ、守られている。

●概況●

幼児から高齢者までの多様な年齢層の人たちや、障がいのある人もない人も誰もが楽しみ、交流できるインクルーシブ公園の整備が進んでいます。

本市では、転入超過により年少人口が維持されている中で、こどもが年齢に応じて身体を動かせる場を求める声が高まっています。こどもだけでなく、様々な使い方を通して人が憩える空間となる公園の整備が重要です。

自然景観、八条ヶ池や西国街道などの歴史的景観、これらと調和した秩序ある都市景観をつくり守ることが大切です。

施策

魅力的な公園の整備

5年後の姿

こどもが思いっきり遊べる快適な公園で、多くの人が憩い、癒されている。

良好な景観の保全

5年後の姿

西山から市街地へ緑の流れが活かされた、うるおいあるまちのたたずまいが未来に引き継がれている。

主な取組

- ◇ 長岡公園の第二期整備、長法寺南原古墳の活用を視野に入れた西山公園の整備を進めます。
- ◇ 公園施設の長寿命化を図ると共に、誰もが安心して利用できるインクルーシブ公園の整備に取り組めます。
- ◇ プレイリーダーの配置など公園の利用を推進すると共に、指定管理者制度の活用など民間の創意工夫を活かして、公園の魅力向上を図ります。
- ◇ みどりのサポーターや地域住民と協働で、公園の緑化や環境美化を進めます。

みどり

都市空間

- ◇ 「長岡京市景観計画」に基づき、市民・事業者と協議しながら、地域特性に応じた景観と調和する都市形成を進めます。
- ◇ 道路・公園・河川・建物などの整備においては、計画段階から景観に対する視点を取入れ、空間的・時間的な連続性・一体性を考えた良好な景観形成を牽引します。
- ◇ 犬川遊歩道は、自然環境と調和し、景観に配慮した整備を進めます。
- ◇ 水辺環境を保全・再生し、ホテルの棲むふるさとづくりに取組む団体を支援します。
- ◇ 屋外広告物の表示・掲出について、良好な景観形成を促進する観点から一定の制限を行ないます。



みどり

5年後の目標

水資源

安全でおいしい水が供給され、使用後もきれいな水として^{かえ}還し、公共水域の水質が保全されている。

●概況●

西山が涵養する地下水と府営水の二元水源によって、安全な水道水を安定的に供給しています。適正揚水量を守った地下水の保全や、京都府営水道の効率的な水運用が重要です。

東第2浄水場の耐震補強工事が完了し、浄水施設の耐震化率が100%となりました。管路の老朽化に起因する事故を未然に防ぐためにも、長寿命化などの対策を進めています。

上下水道ビジョンに基づく施設の更新や効率的な水運用が求められます。

施策

水資源の保全

5年後
の
姿

企業・市民の理解と協力のもと、地下水の適切な利用により、良質な水資源が保全・継承されている。

水の安定供給

5年後
の
姿

安全で良質な水道水が、安定的に供給されている。

下水の適正処理

5年後
の
姿

下水道施設・設備の更新が着実に進み、下水の適正な処理によって、公共用水域の水質が保全されている。

主な取組

- ◇ 地下水資源を次世代に継承するため、適切な保全と利用について、市民・企業と共に取組めます。
- ◇ 市内の井戸の水位及び使用量の観測を継続的に実施します。

みどり

水資源

- ◇ 将来にわたり、安全な水を安定的に供給できるよう、京都府や受水市町と連携しながら、水道事業の広域化について協議します。
- ◇ 水道水質基準については、国の最新基準や知見等を踏まえ、検査場所や検査頻度等を見直すと共に、給水栓(蛇口)における水質の管理強化を図り、安全で良好な水の供給を行います。
- ◇ 老朽管路更新基本計画を見直しながら、材質(管種)や埋設場所の土質などを踏まえて優先順位を決定し、計画的に管路の更新を進めます。

- ◇ 持続可能な下水道事業のあり方について、京都府とも連携し、ウォーターPPPの導入検討や執行体制の確保等の効率的な運営が可能となるよう取組めます。
- ◆ 下水道管路施設の老朽化対策・耐震化に向けた長寿命化を進めます。



けい
い
え
い

魅力の共創

シティプロモーション

連携と共創

安定した行財政運営

魅力ある人財と組織

DX の推進

安定した財政運営と

資産の有効活用



けいえい

5年後の目標

魅力の共創

誰もがいきいきと暮らせるまちの魅力が次世代に引継がれ、多様な主体が共にまちづくりを進めている。

●概況●

平成28年度にシティプロモーションガイドラインを策定し、市民・団体・企業等と行政が一体となり、多角的なシティプロモーション活動を展開しています。「かしこ暮らしっく」な本市の住み心地を維持しつつ、「住みたい 住みつづけたい」と思ってもらうために、さまざまな資源を効果的に活用し、持続可能で、より効果的なシティプロモーションを継続していく必要があります。

大学や企業との包括連携協定をはじめ、様々な分野で連携を進めています。行政と大学、行政と企業、行政と市民だけでなく、行政と連携する主体間のコミュニケーションを生み、まちづくりに参画することが求められます。

多様な主体との協働によるまちづくりとシティプロモーションの更なる好循環が重要です。

施策

シティプロモーション

5年後の姿

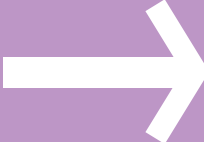
多様な主体が自律的にまちづくりに参画し、市民が地域に誇りと愛着を持ち、いつまでも住みつづけたいと感じるまち、市外の人が憧れるまちになっている。

連携と共創

5年後の姿

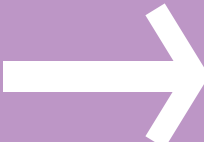
共に長岡京市の未来を語り、つくっていくために、市民等多様な主体との繋がりと対話ができている。

主な取組

- 
- ◇ 市民や事業者、本市のファンなど多様な主体と協働したシティプロモーションを展開します。
 - ◇ ふるさと納税を活かした市の魅力発信と共感の拡大に取り組めます。
 - ◇ 長岡京ガラシャ祭が、多くの市民や企業に支えられて、広く市外からの来訪者にも愛される祭として盛上っていくよう支援します。

けい

魅力の共創

- 
- ◇ 行政の様々な分野で企業との連携を深め、市民サービスの充実に繋がります。
 - ◇ 大学や市民活動団体など非営利組織との連携の輪を広げ、双方の知見を活用しながら、公的な課題を共有し、解決します。
 - ◇ 市長自ら積極的に市民と対話し、市民と行政、市民と市民との活発なコミュニケーションを基盤に、多様な主体が参画するまちづくりを目指します。
 - ◆ 市民参画の機会を増やすため、オンラインプラットフォームなど新たな手法も研究しながら、市民間コミュニケーションの活性化を図ります。



けいえい

5年後の目標

安定した行財政運営

基礎自治体として、市民の信頼が厚く、自律的で持続可能な行財政運営を行っている。

●概況●

民間も含め人材獲得競争が激化する中、従来の発想にとらわれない人材確保・定着策の強化が求められます。

多様な人材が働きやすい職場となるよう、ワーク・ライフ・バランスを推進すると共に、人事制度、職員研修制度、職場環境の整備などにより、職員の持つスキルや能力を最大限に発揮できるようにすることが求められます。

新庁舎の整備を契機として、デジタル技術やデータの活用による市民の利便性向上や、業務の効率化を進めてきました。今後もセキュリティを確保しつつ、誰もがデジタル化の恩恵を享受できる環境整備が求められます。

市民共有の資産である公共施設について、「公共施設再編整備構想」に基づく効率的な管理と効果的な活用が重要です。

施策

魅力ある人財と組織

5年後の姿

職員の主体的な学びへの支援やワーク・ライフ・バランスが整った活力あふれる職場の中で、市民のニーズに、的確・迅速に応えられる人材が育っている。

DXの推進

5年後の姿

「行かなくてよい」「書かない、待たない」市役所へと進化している。誰一人取残さないデジタル化を進めることで、高齢者や障がい者など全ての人にやさしい市役所となっている。

安定した財政運営と資産の有効活用

5年後の姿

限られた財源を効果的・効率的に活用し、安定した財政運営が進められている。

主な取組

- ◇ 組織体制について、市民への分かりやすさ、その時々課題への柔軟な対応や業務効率の向上を視点として常にアップデートします。
- ◇ 国や府への職員の派遣など他機関との交流を通じた人材育成を進め、人事・研修制度を多角的な視点で見直し、職員のエンゲージメントが高い組織をつくります。
- ◇ 職員の主体的なキャリア形成を支え、市民の期待を超える職員を育てます。
- ◇ ワーク・ライフ・バランスの実現やオフィス改革、育児休業等を取得しやすい職場風土づくりなど、働きやすい職場の実現に取り組めます。
- ◇ 市の魅力・公務の魅力を発信することに加え、試験方法の工夫や外部人材の採用など、人材確保に努めます。職員数は再任用職員を含めた定員管理を継続します。

- ◇ AIをはじめデジタル技術を活用し、市民にとって便利であることを追求すると同時に、行政サービスの質の向上を目指します。
- ◇ CIO(=最高情報統括責任者)をトップとして、デジタル化の取組を推進する中で仕事の見直しを進め、職員の作業負担を軽減し、対人業務の充実を目指します。
- ◇ デジタルデバインド対策を進め、高齢者や障がいがある人にとっても、便利な市役所づくりを進めます。

- ◇ 効果の高い事業への重点投資や時代の変化に応じた事業の再構築など、メリハリの効いた予算を編成します。
- ◇ 金利負担の上昇を見据え、投資的経費の平準化のほか市債発行の多様化等により、公債費負担の抑制を図ります。
- ◇ ネーミングライツの導入や広告収入など歳入の多様化に取り組めます。
- ◇ 市庁舎の完成等に伴い未利用となる公共施設の効果的な活用を努め、公共施設全体の機能再編を進めます。
- ◇ アセットマネジメントを推進することで、長期的な財政負担の軽減を図り、施設跡地など遊休資産を計画的に活用します。

けいえい

安定した行政運営

